

コンニャク新品種「みやままさり」の選定

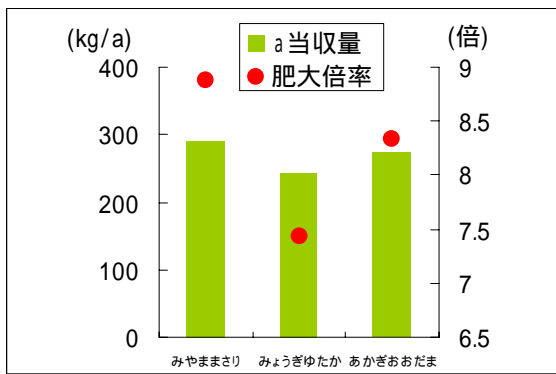
農業総合センター山間地帯特産指導所

1. 品種特性

- 1) 「あかぎおおだま」より出芽期は7日、開葉期は5日遅いため、「あかぎおおだま」との作付け体系において、敷きわらや培土作業の分散を図ることができます。
- 2) 球茎収量は「あかぎおおだま」より6.2%、肥大倍率は6.6%高く、着生した生子のほとんどが球状となります。そのため、植付け作業が簡単かつ機械化できるうえ、貯蔵スペースを広くとりません。
- 3) 生いもからの精粉(グルマナ)歩留は約2%「あかぎおおだま」よりも高くなります。また、精粉をゲル化し煮沸製造したこんにゃくの貫入抵抗値は、「あかぎおおだま」より40g高くなり、歯切れのよいこんにゃく加工用原料となります。

2. 栽培上の留意点

- 1) 排水が良く風あたりの少ない畑を選びます。
- 2) 連作をすると根腐病や乾腐病が多発し減収するので輪作をします。
- 3) 病害発生を抑止と蔓延防止のため薬剤の予防散布に重点をおき適期防除を実施します。



3. 収量目標 : 3,700 ~ 4,000 kg/10a

4. 種球の準備

- 1) 植付け種球は肥大良好で充実し活力があるので、無病無傷のものを用います。
- 2) 乾腐病防除のために、生子は粉剤を粉衣、種球は主芽を上向きにして薬液を散布後、薬液が十分乾いてから植え付けます。

5. 施肥

- 1) pH5.5 ~ 6.0 を目標に土壌改良資材を投入します。
- 2) 元肥は植付け3週間前に施し、追肥は6月下旬の発芽初期に畦間に施し培土します。培土の厚さは種球高さの3倍前後とします。

標準(2年生)施肥量(kg/10a)

成分	総量	元肥	追肥
窒素(N)	15.0	7.5	7.5
リン酸(P ₂ O ₅)	10.0	10.0	-
カリ(K ₂ O)	7.5	7.5	7.5

6. 植付け

- 1) 1年生: 畦幅60cm、株間10~15cm、条数2条(千鳥)、条間11~15cmとします。2年生: 畦幅60cm、株間15~25cm、条数1条とします。
- 2) 植付けは5月10日以降で日平均地温が10℃になってから行います。
- 3) 植付け後の覆土は種球高さの約2倍とします。

7. 病虫害防除

開葉期以降に、葉枯病、腐敗病、アブラムシを中心に防除します。

8. 掘り取り

成熟期に達し80%前後の株が黄化、倒伏してから晴天の日に掘り取ります。10月中~下旬になります。

9. 予備乾燥

ビニールハウスによる天日乾燥は20~25日の乾燥期間で10~20%の消耗率(重量比)とします。ハウスの日中の温度は30℃以下、夜間は10℃を確保します。

10. 貯蔵庫内の温湿度

貯蔵開始~萌芽前期: 温度7~10℃、湿度70~80%、萌芽期: 温度10~12℃、湿度80~85%とします。

生子と球茎では貯蔵に適する温度と湿度が、生子の方が高めのため、生子と球茎を分けて貯蔵します。